

# 中山間地域に大学を設立する

－日出町立「データ・サイエンティスト養成大学」設立構想－

2022年1月12日

名古屋大学・明治学院大学名誉教授 加賀山 茂

## 目次

はじめに－なぜ中山間地域に大学を設立するのか？.....	2
1. 中山間地域とは何か？.....	2
2. 日出町の人口動態の現状と10年後の予測.....	2
3. 日出町の生き残りの戦略としての大学の創設.....	3
I 中山間地域に大学を設立して成功した例.....	3
1. 国際教養大学の教育.....	4
(1) 開学の理念・教育目標.....	4
(2) 教育方法.....	4
(3) 主な開講科目.....	4
2. 国際教養大学の経営.....	5
(1) 運営.....	5
(2) 教職員.....	5
(3) 学生.....	5
II 国際教養大学の設立後に生じた課題.....	5
1. SDGsの「誰一人取り残されない」社会の実現という課題.....	5
2. AIの爆発的発展によって生じた多言語対応の容易さという課題.....	6
3. パンデミックに対応するための課題.....	6
III 日出町立「データ・サイエンティスト養成大学」設立構想.....	6
1. AIマッチングによる後継者問題の解決.....	6
2. AI翻訳による異文化理解問題の解決.....	7
3. ハイブリッド授業によるパンデミック問題の解決.....	7
おわりに.....	8
1. 誰一人取り残されない社会の意味.....	8
2. 教育到達目標と大学卒業後の人物像.....	9
3. 日出町の持続的発展のための人格の涵養.....	10
参考文献.....	10

# はじめに—なぜ中山間地域に大学を設立するのか？

## 1. 中山間地域とは何か？

農水省のホームページによると、「中山間<sup>ちゅうさんかん</sup>地域」とは、農業地域類型区分のうち、中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域を指すものとされている。

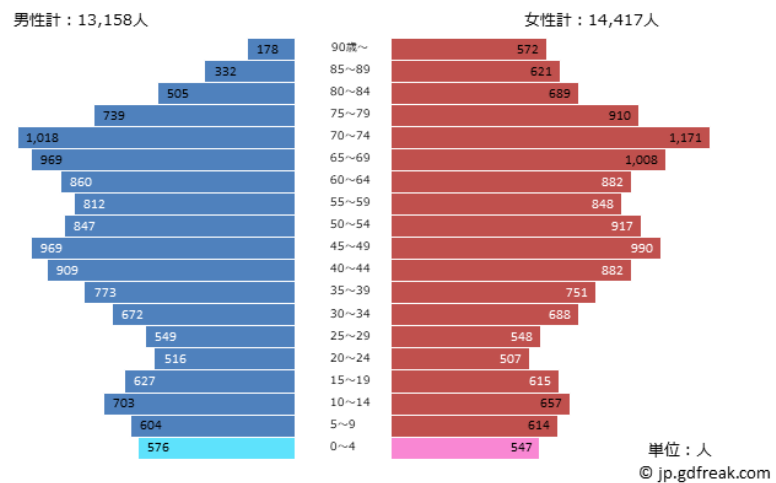
山地の多い日本では、このような中山間地域が総土地面積の約 7 割を占めており、しかも、この中山間地域における農業は、全国の耕地面積の約 4 割、総農家数の約 4 割を占めるなど、我が国農業の中で重要な位置を占めている。

このような中山間地域では、どこでも、少子高齢化が顕著に進んでいる。特に、少子化の進行によって貴重な人材となっている若者が地域から都市へ向けてどんどん流出している。このため、中山間地域では、若者の流出に歯止めをかけるための方策を講じることが喫緊の課題となっている。

## 2. 日出町の人口動態の現状と 10 年後の予測

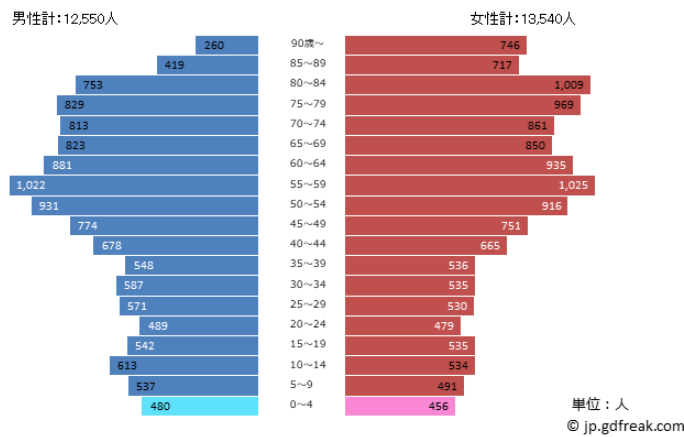
わが日出町も、中山間地域の例にもれず、少子高齢化が進行している。人口そのものは、毎年 60 人ほど減少しているだけで、現在も 28,289 人(2021 年 8 月 1 日現在)の人口を維持しているが、若者の流出に歯止めがかからない状態である。

2020年 日出町の人口構成 (予測)



現在の人口ピラミッド (人口動態図) を眺めてみると、20 代の若者の人口が極端に減少しており、一度流出した若者はなかなか日出町に帰ってきてくれないという現状がよくわかる。

2030年日出町の人口構成(予測)



さらに、10年後の日出町の人口動態図(予想図)を見てみると、若者人口は、相変わらず極端に少なく、その上、人口自体も、現在の2万8千人台から、2万6千人台に減少することが予想される。

日出町で生じている若者の人口流出の原因

は、高校卒業後に進学すべき大学が日出町には存在しないからである。もしも、日出町に大学があり、その大学が、日出町の人々にとって一番大切な後継者を養成するデータ・サイエンティスト養成大学であったならば、若者の流出を防止できるばかりでなく、町の産業が「持続的な発展」を遂げることが可能になると思われる。

### 3. 日出町の生き残りの戦略としての大学の創設

そこで、私は、最初に、既存の大学を誘致することを考えた。しかし、人口3万人に満たず、しかも、人口が減少しつつある町に大学を誘致することは、ほとんど不可能であることがわかった。

しかし、そこであきらめるのは早すぎる。私の信条は、言行一致とともに、「ないものは作ればよい」というものだからである。

大学が来てくれないのであれば、大学を作ればよい。幸いにも、私が中心人物の一人となって創設し、私が初代会長を務める一般社団法人『法と経営学会』の仲間には、優れたデータサイエンスの専門家、情報通信ネットワークの専門家がいる。また、勤務大学で知り合った経営コンサルタントもいる。そこで、データサイエンスの学者・実務家2人、情報通信ネットワークの専門家、経営コンサルタントと私とで、大学を設立し、運営するための株式会社を立ち上げて、大学を設立する事業を開始することにした。

最初の事業は、日出町ではなく、岡山県のある市に大学を設立する予定だが、そこでの事業が成功すれば、次には、日出町で、大学を設立することにした。

その大学の全体像は、後に詳しく説明するが、世界に通用する学識(データサイエンス、法学、経営学の三位一体)と実践力(語学力、説得力、マネジメント力)を備えた、後継者を養成する大学(単科大学、または、専門職大学)であり、名称は、日出町立「データ・サイエンティスト養成大学(仮称)」である。

## I 中山間地域に大学を設立して成功した例

中山間地域で、大学を設立して成功するのだろうか、心配する向きもあると思うので、

中央から遠く離れた秋田県の森の中で、2004年に設立されて、大成功を収めている「国際教養大学」の例を紹介する。

## 1. 国際教養大学の教育

国際教養大学は、2004年に、秋田市の郊外の雄和に開校した、公立学校法人である。施設は、学生不足で前年（2003年）に廃校となったミネソタ州立大学機構秋田校（MSUA）の施設を、そのまま引き継いで、その施設をリノベーションしたため、施設整備費は、10億円で済ませることができたという。

### (1) 開学の理念・教育目標

国際教養大学の開学の理念は、国際的に活躍できる人材の育成である。そして、教育目標は、すなわち、英語による卓越したコミュニケーション能力と豊かな教養を身につけた実践力のある人材を育成し、国際社会と地域社会に貢献することである。



国際教養大学は、秋田空港からほど近い森のなかにある  
①多目的ホール②グローバル・ヴィレッジ(学生宿舎)③こまち寮(学生寮)④カフェテリア⑤⑥⑨講義棟⑦ユニバーシティ・ヴィレッジ(学生宿舎)⑧サークル棟⑩図書館⑪プラザクリプトン(ゲストハウス)

「言うは易く、行うは難し」であり、このような人材を養成しようと思えば、教育方法は、以下のように、教員にとっても、学生にとっても、一見実現不可能に思えるほどに厳しいものとなる。

これを実現したところに、国際教養大学の成功の鍵がある。

### (2) 教育方法

国際教養大学の教育方針は以下の通り。

- ①授業はすべて英語で行う。
- ②少人数教育を徹底（1クラス15人程度）
- ③在学中に一年間の海外留学を義務化
- ④新生は、外国人留学生とともに一年間の寮生活

⑤専任教員の半数以上が外国人

⑥厳格な卒業要件

⑦図書館は、365日24時間で開館

### (3) 主な開講科目

#### A) 基盤教育

- 社会科学
- 芸術・人文学
- 数学・自然科学
- 世界の言語と言語学
- 学際研究

- コンピュータ, キャリア, 留学
- 日本研究

### B) 専門教科目

〔(a) グローバル・ビジネス課程〕(マイクロ・マクロ経済を中心とした国際経済社会の教養を修得)

- 必修専門核科目
- 選択専門核科目
- 総合セミナー

〔(b) グローバルスタディズ課程〕(北米分野, 東アジア分野, トランスナショナル分野の三つの分野に分かれて, 文化, 歴史, 政治, 経済を広く学習する)

- 選択専門核科目
- 総合科目
- 総合セミナー

## 2. 国際教養大学の経営

### (1) 運営

トップダウン方式による迅速で機動的な意思決定システムの構築, 民間的経営手法の導入, 第三者評価システムに基づく能力主義, 成果主義の導入などを行っている。

運営費は, 17 億円 (県からの交付金が 11 億円) である。

### (2) 教職員

教員と職員とは平等で, すべて公募, 任期制を採用している。

任期は, 最長 9 年まで更新可能で, 定年は 67 歳。ただし, 優れた教員については, 更新回数制限のない「無制限契約」, さらに, 「無期限契約」を置くという, ステップアップ方式を採用している。もっとも, その場合でも, 定年は 73 歳止まりである。

人件費は, 運営費の 6 割以内 (10 億円) にとどめている。詳しいことはわからないが, 基準年俸は, 1,000 万円程度と推測される。

### (3) 学生

A) 学部生: 学部定員は, 開学時 100 人で, 段階的に 200 人まで引き上げる予定。授業料は, 年間 53 万 5,800 円。また, 1 年生の時の寮費は, 年間 43 万 3,000 円 (月額約 3 万 6,000 円), 内訳は, 住居費 (ワンルーム 7.5 畳) 23 万円, 食費: 20 万円 (1 日 3 食, 学期中), 退去時清掃費: 3,000 円。

B) 大学院生: 開学から 4 年後に開設された。定員は 30 名。

## II 国際教養大学の設立後に生じた課題

### 1. SDGs の「誰一人取り残されない」社会の実現という課題

国際教養大学の教育方針は, 一種のエリート教育である。ストレートで卒業できる学生は, 全体の半数であり, 後の学生は, 何年か延長して卒業にたどり着いている。

卒業生の「質の保証」を大切にしていることはよくわかるし、大切なことであるが、「誰一人取り残されない」というSDGsの精神に則るならば、躓いた時点で、それをリカバーする教育カリキュラムも用意されるべきだと考える。

## 2. AIの爆発的發展によって生じた多言語対応の容易さという課題

国際教養大学では、授業はすべて英語で行われ、それに適応するために学生は必至で勉強しなければならない。教員も職員も同様である。

しかし、多言語の翻訳技術が長足の進歩を遂げている現在のAIの発展を考慮するならば、講義を英語ですることは必須ではなくなっているように思われる。

むしろ、日本語で入力（音声入力を含む）すると、自動的に英語に翻訳し、読み上げるソフトウェアが存在するし、例えば、中国の留学生が中国語で入力すると、その中国語を自動的に、英語と日本語とに翻訳することが可能である。

このようなソフトウェアを駆使することによって、言語の壁を乗り越えることが検討されるべきであろう。

## 3. パンデミックに対応するための課題

「ロータリークラブの例会は、不要・不急の行事ではない」という考え方の下で、日出ロータリークラブが例会の灯を消すことがなかったように、今後発生する新しいパンデミックに対応するためにも、次のパンデミックが生じた場合にも対応できるように、講義は、原則をリモートとし、嚴重な感染対策を講じることを条件に、希望する学生に対面の講義も許すという新しい通信教育のあり方が模索されるべきだと考える。

# Ⅲ 日出町立「データ・サイエンティスト養成大学」設立構想

## 1. AIマッチングによる後継者問題の解決

日出町の若者流出の状況は、人口動態図を見れば、一目瞭然であり、その原因が、日出町に大学がないために、高校を卒業した多くの若者が大学のある都会へ流出するからであることも明らかである。

日出町の多くの若者が都市へと流出するという現象は、高齢化の進む日出町にとって、後継者不足という現象を加速させている。

人類の第1の目標は、人類が他の生物と共存しながら地球で生きのびることである。人類が世代を超えて生きのびてきたのは、人類が後継者を育ててきたからに他ならない。

後継者を育てることができなければ、経済は縮小し、持続的な活動は停滞してしまう。私たちが賛同している SDGs（持続的開発目標）の目的を達成するためにも、後継者を育成する活動を止めてはならない。

この問題を解決するた

めに、データ・サイエンティスト養成大学においては、すべての業種の継続に必要な能力を明らかにするとともに、それぞれの業種に必要なカリキュラムを開発し、それを教えることができる教員とコンタクトを取って、すべての入学者に対して、それぞれの学生が望む業種に必要な知識・技術、そして、倫理を教育することができるように、AI を活用して、最適なマッチングを行うつもりである。

AI マッチングの技術的な問題について、ここで触れることはできないが、マッチングの基本的な考え方については、栗野盛光『ゲーム理論とマッチング』日経文庫（2019/10/15）を参照していただきたい。

## 2. AI 翻訳による異文化理解問題の解決

少子高齢化問題を解決するための第1の解は、後継者を育成することだが、第2の解は、外国の人材を含めて、優秀な人材を受け入れることである。

しかし、そのためには、私たちが異文化を深く理解し、言語の壁を乗り越えるコミュニケーション力を身につけなければならない。

これまでは、これを個人の語学能力として個人の努力に委ねてきた。しかし、AI の発展によって、すべての言語は、英語を介して、同時翻訳が可能となる時代に突入している。AI 翻訳の利点は、どのような言語で入力しても、それが、瞬時に英語に翻訳され、かつ、日本語にも翻訳可能となっていることである。

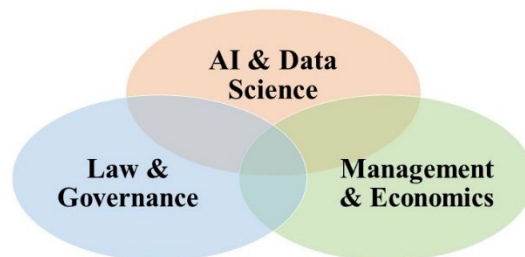
この AI 翻訳の力をうまく利用するならば、どのような国の人とも、個人の語学能力を度外視して、相互のコミュニケーションが可能となる。

そこで、データ・サイエンティスト養成大学では、すべての教員、および、学生が、自国語でしゃべったり、書いたりすれば、それが、瞬時に英語に翻訳され、かつ、日本語にも翻訳される AI 翻訳の機能をフルに活用して、すべての国の人々が自由にコミュニケーションとれるようなシステムを開発する。そして、公用語を英語と日本語としつつ、多言語問題、異文化理解の障害を乗り越えることを試みる。

## 3. ハイブリッド授業によるパンデミック問題の解決

今回の新型コロナウイルス感染症で明らかになったことは、ウイルスのような顕微鏡でも見えず、電子顕微鏡で初めて確認できるような病原体が、空気を媒体として感染を引き起

# 後継者養成大学の「三位一体」カリキュラム AI(人工知能), 法と経営



越すということになると、空気を吸って生きている人間にとって、完全な気密室の中だけで生活することができない以上、感染を完全に止めることはできないということである。

頼りになるワクチンも、完全ではないし、ウイルスの変異には対応できない。しかも、最後の砦としての人間の免疫力にも限界がある。

したがって、空気感染を防ぐために、人間が簡単にできることといえば、三つの密（密閉、密集、密接）をなるべく避けることしか方法がない。

このことを考慮するならば、インターネットを利用したリモート授業は、パンデミックから身を守りつつ、高度な教育を可能にする最高の手段であり、感染の状況を見極めつつ、この方法を利用しない手はないであろう。したがって、データ・サイエンティスト養成大学では、いざというときには、完全なリモート授業で卒業要件をクリアできる方法を実現するとともに、感染が収まった場合には、リモートと対面授業とを併用するという方式を採用することによって、パンデミックの中でも、教育活動を止めることなく持続させることが可能である。

## おわりに

### 1. 誰一人取り残されない社会の意味

教育というと、エリート教育が注目されるが、これまでの歴史を眺めてみると、エリートの暴走をフォロワーが制御できなくなったときに悲劇が生じていることがわかる。世の中に、絶対といえる法則は数少ないが、「人間はいつか必ず死ぬ」、「権力は腐敗に向かう、絶対的権力は絶対的に腐敗する」という法則は、例外がない原則といえよう。

エリートは、権力に結び付きやすいため、フォロワーが適時の交替を求めたり、フォロワーがエリートに交代できたりする実力を身につけておくことが必要である。

日本の最大の悲劇である、第二次世界大戦による敗戦も、エリートたちの暴走を国民が止められなかったことにある。

「誰一人取り残されない」というSDGsの基本理念は、躓かずに成長を遂げる学生たちだけでなく、途中で何らかの原因で躓いた学生に対しても、援助の手を差し伸べ、躓きの原因を取り除くことを通じて、時間はかかってもエリートと同様の学力をつけさせるべきであることを示唆しているように思われる。

一般の国民がエリートと同様の学力を身につけ、常にエリートに交代できるようになるか、少なくとも、エリートの暴走を見破る力を身につけることこそが、国民生活を平和で豊かにするために不可欠の前提なのである。

データ・サイエンティスト養成大学では、基幹となる①AI・データサイエンス、②法学・ガバナンス、③経営学・経済学の三位一体教育ばかりでなく、躓きを防止できる少人数教育、外国語を含めたりベラル教育を重視することを通じて、いつでもエリートに交代できる能力、少なくとも、エリートの暴走を阻止することができる能力を身につけることをめざすことにする。



## 2. 教育到達目標と大学卒業後の人物像

データ・サイエンティスト養成大学では、あらゆる職種について、その後継者となるための学力を身につけることをめざすばかりでなく、人生を幸せに過ごすことができるように、以下の三つの能力を養成することにも力を入れる。

第1は、他人を大切にすること。

第2は、自分を育てること。

第3は、失敗を恐れずにチャレンジすること。

これらの3つの生活上の行動指針の3項目は、それぞれ、2つに分岐して、以下のような6項目を重視して教育を行う。

### I 他人を大切にすること

① 他人の嫌がることをしない（論語：己の欲せざることを人に施すこと勿れ（顔淵第十二2，衛霊公第十五24））

② 他人がしてほしいと思うことを進んでする（聖書：自分が他人にしてほしいと思うことを他人にしなさい（Matthew 7:12, Luke 6:31））

### II 自分を育てること

③ 「好きこそものの上手なれ」ということわざがありますが、現実には逆で、「上手こそものの好きなれ」である。

何事も上手になると好きになります。そして、好きになると、よりいっそう上手になる。したがって、教育とは、好きなことを上手にさせるのではなく、人生で必要なことは、たとえ、学生が嫌いなことでも、上手にさせることをめざして訓練をすべきである。最初に上手にさせてこそ、「好きこそものの上手なれ」という好循環が実現できるのである。

④ 「継続は力なり」ということわざがある。

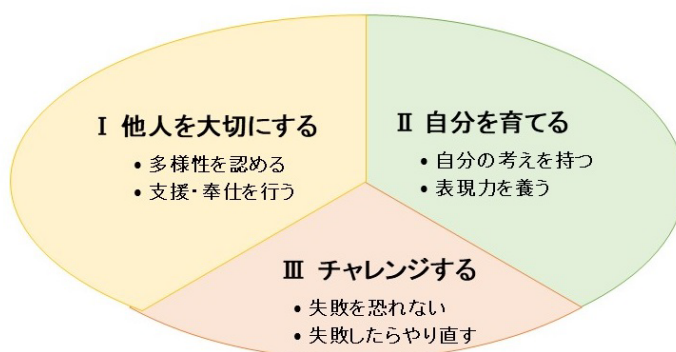
良いと思うことは、嫌いなことでも頑張って継続することが大切である。継続して無意識にできるようになったときに、それが、その人の「人格」といわれるものとなるのである。

### III チャレンジすること

⑤ 失敗を恐れず、チャレンジすること。

⑥ 失敗したらやり直す、もしもやり直せない失敗をした場合には、相手が立ち直るまで、償いをする。

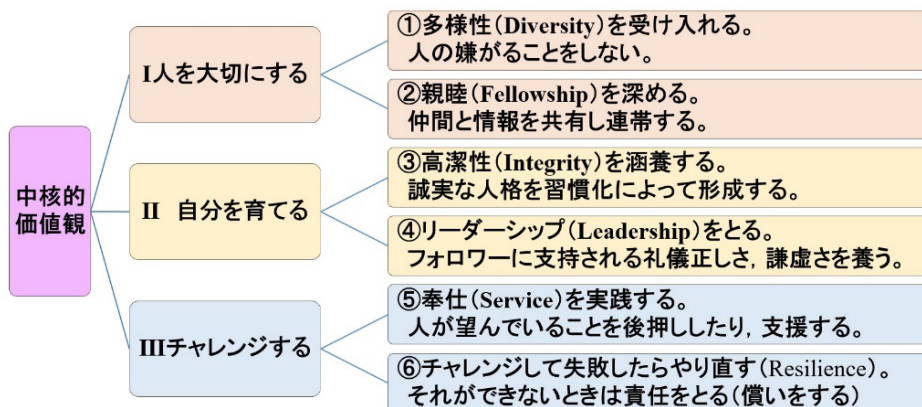
## 行動基準の習慣化による人格の涵養



### 3. 日出町の持続的発展のための人格の涵養

私は、日出ロータリークラブに所属しているが、ロータリアンとして、もっとも重要な課題は、「中核的価値観」(親睦 (Fellowship), 高潔性 (Integrity), 多様性 (Diversity), 奉仕 (Service), リーダーシップ (Leadership)) を身につけることである。これらの徳目は、ロータリアンに限らず、日出町が持続的に発展する上で、すべての市民が身に着けるべき徳目であると思われる。

実は、これらの中核的価値観と言われる徳目は、先に述べた3つの行動指針を2つずつに分岐させた6



つの行動指針の内の5つの項目にぴったりと適合し、しかもアルファベット順に整理できる。

すなわち、第1の「他人を大切にする」という項目に、Diversity (多様性) と Fellowship (親睦) が入る。第2の「自分を育てる」という項目に、Integrity (高潔性), Leadership (リーダーシップ) が入る。第3の「チャレンジする」という項目に、Service (奉仕) が入る。その上、最後の「失敗したらやり直す」という項目に Resilience (回復力) を付け加えることもができる。

このように考えると、データ・サイエンティスト養成大学の卒業者は、それぞれの業種に適応した技術力と適切な倫理を身につけるばかりでなく、それが、ロータリアンの「中核的価値観」に一致するのであるから、人格の涵養に関しても、最高の方法となっていると思われる。

### 参考文献

- 新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新聞社 (2018/2/15)
- 新井紀子『AI に負けない子どもを育てる』東洋経済新報社 (2019/9/19)
- 石川一郎『2020年からの新しい学力』SB新書 (2019/9/15)
- 石川一郎『今知らないと後悔する2024年の大学入試改革』青春新書 (2021/11/15)
- 石戸奈々子編『日本のオンライン教育最前線—アフターコロナの学びを考える』明石書店 (2020/10/1)
- 井尻昭夫=江藤茂博=大崎紘一=三好 宏=松本健太郎編『大学と地域—持続可能な暮らしに向けた大学の新たな姿 (シリーズ・21世紀の地域)』ナカニシヤ出版 (2020/4/20)

- 大川繁子『92歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て』実務教育出版 (2019/9/11)
- 大野和基 編『コロナ後の世界』文春新書 (2020/7/20)
- 落合陽一『2030年の世界地図帳ーあたらしい経済とSDGs, 未来への展望ー』SBクリエイティブ
- 笈裕介『持続可能な地域の作り方ー未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』英治出版 (2019/5/10)
- 蟹江憲史『SDGs (持続可能な開発目標)』中公新書 (2020/8/20)
- 栗野盛光『ゲーム理論とマッチング』日経文庫 (2019/10/15)
- ジム・コリンズ=ビル・ラジアー(土方奈美訳)『ビジョナリーカンパニーZERO (Beyond Entrepreneurship 2.0)』日経BP (2021/8/23)
- 澤田昭夫『論文のレトリックーわかりやすいまとめ方』講談社学術文庫 (1983)
- 杉原厚吉『大学教授という仕事』水曜社 (2010/1/25)
- 武村政春『生物はウイルスが進化させたー巨大ウイルスが語る新たな生命像ー』ブルーバックス (2017/5/1)
- 武村政春『ヒトがいまあるのはウイルスのおかげ！ー役に立つウイルス・かわいいウイルス・創造主のウイルス』さくら舎 (2019/1/11)
- 筑摩書房編集部編『コロナ後の世界ーいま, この地点から考える』筑摩書房 (2020/9/1)
- 東洋館出版社編『ポスト・コロナショックの学校で教師が考えておきたいこと』東洋館出版 (2020/6/10)
- P.F.ドラッカー (上田惇生訳)『非営利組織の経営』ダイヤモンド社 (2007/01/26)
- 中嶋嶺雄『なぜ, 国際教養大学で人材は育つのか』祥伝社黄金文庫 (2020/12/20)
- 中屋敷 均『ウイルスは生きている』講談社現代新書 (2016/3/20)
- 西垣通『AI原論ー神の支配と人間の自由』講談社選書メティエ (2018/4/10)
- 西垣通=河島茂生『AI倫理-人工知能は「責任」をとれるのか』中公新書ラクレ (2019/9/6)
- 日本建築学会『まちのようにキャンパスを作りキャンパスのようにまちをつかうー大学キャンパス再生のデザイン』日本建築学会 (2020/1/31)
- D・S・ピュー (角谷 快彦訳)『博士号のとり方ー学生と指導教員のための実践ハンドブックー』〔第6版〕名古屋大学出版会 (2018/10/17)
- バイロン・リース (古谷美央訳)『人類の歴史とAIの未来』ディスカバー・トゥエンティワン (2019/4/30)
- 福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社現代新書 (2007/5/20)
- 福岡伸一『生命と食』岩波ブックレット (2008/8/6)
- 福岡伸一『できそこないの男たち』光文社新書 (2008/10/20)
- 福岡伸一『新版 動的平衡 1ー生命はなぜそこに宿るのか (生命とは何か)ー』小学

館新書 (2017/6/5)

- 福岡伸一『新版 動的平衡 2ー生命は自由になれるのか (生命はどこから来たのか)ー』小学館新書 (2018/10/8)
- 福岡伸一『動的平衡 3ーチャンスは準備された心にもみ降り立つー』木楽舎 (2017/12/1)
- 松尾豊『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』角川 EPUB 選書 (2015/3/11)
- 南博=稲場雅紀『SDGsー危機の時代の羅針盤』岩波新書 (2020/11/20)
- 宮沢和正『ソラミツ世界初の中銀デジタル通貨「バコン」を実現したスタートアップー日本発のブロックチェーンで世界を変えるー』日経 BP (2020/12/21)
- 村上陽一郎編『コロナ後の世界を生きるー私たちの提言』岩波新書 (2020/7/17)
- 室田武『エネルギーとエントロピーの経済学ー石油文明からの飛躍』東経選書 (1979/1)
- 養老孟司=ユヴァル・ノア・ハラリ=福岡伸一=ブレイディみかこ=ジャレド・ダイアモンド=角幡唯介他 (朝日新聞社編)『コロナ後の世界を語る 現代の知性たちの視線』朝日新書 (2020/8/11)
- 吉見俊哉=佐藤郁哉他『特集=コロナ時代の大学——リモート授業・9月入学制議論・授業料問題』現代思想 48 巻 14 号, 青土社 (2020/10/1)
- 吉見俊哉『大学という理念ー絶望のその先へ』東京大学出版会 (2020/9/10)
- リヒテルズ直子 (監修・出演)『明日の学校に向かってーオランダ・イェナプラン教育に学ぶー』グローバル教育情報センター (2015)
- リヒテルズ直子『今こそ日本の学校に！イェナプラン実践ガイドブック』教育開発研究所 (2019/9/1)
- ジェレミー・リフキン (柴田裕之訳)『限界費用ゼロ社会ーモノのインターネット>と共有型経済の台頭ー』NHK 出版 (2015/10/27)
- ジェレミー・リフキン (柴田裕之=伊藤陽子訳)『スマート・ジャパンへの提言ー日本は限界費用ゼロ社会へ備えよー』NHK 出版 (2018/4/25)
- L・ランダル・レイ (中野 剛志=松尾 匡・解説, 島倉 原=鈴木 正徳・訳)『MMT 現代貨幣理論入門』東洋経済新報社 (2019/8/30)
- 渡辺信一『AIに負けない「教育」』大修館 (2018/8/1)